

バブル期をピークに生コン出荷量が年々減少し、技術革新や産業構造の刷新が求められるなか、2004年からポーラス(透水性)コンクリートの開発・販売を行ってきた静岡県伊豆の国市の生コン会社社長・宮本充也さん。業界の革命児を訪ね、意見交換を行いました。

新たな技術で生コン業界の壁を打破

脱炭素に
貢献できる産業に

90分の壁を越え、
全国に販売網を構築

宇田 宮本さんが販売されているポーラスコンクリートはいまや全国800社の生コン工場に取り扱われています。

宮本 実は滋賀県は苦戦している地域の一つで、今回お声がけいただいたことに少し驚いています。

吉田 販売のために全国行脚をされたとか？

宮本 滋賀で説明会を開催したとき、来場者はゼロでした…(笑)
ポーラスは樹脂系の混和材を使うため、

有限会社
長岡生コンクリート

代表取締役

宮本 充也 さん

聞き手

宇田 毅 副理事長
吉田 錦一郎 理事

生コン工場には敬遠されてきました。そこで試行錯誤の末、完全無機材による製造方法を開発したのが当社のポーラスコンクリートです。しかし技術開発より大きな壁になったのが販売でした。自社工場から運べるエリアは限られ、遠方で受注できてもその都度地元の生コン工場に製造してもらうための交渉が必要です。そこで全国をまわって工場とのアライアンス体制をつくり、商圏90分という縛りを突破することができました。

宇田 クレジットカードでの販売も先駆けでしたね。

宮本 現在では8割がクレジットです。うちは遠方や小口の取引が多いので信販会社を挟むほうが安心なんです。最近では、



長岡生コンが開発したポーラス(透水性)コンクリート
従来のコンクリートは水を弾き水たまりになっていたが、ポーラスコンクリートは雨水を地中へ浸水させる透水性を備え、ゲリラ豪雨などによる水害対策にも貢献。

AIを使って数秒で与信審査してくれるマネーフォワードを活用しています。

水より安い生コンクリート

宇田 そもそもなぜポーラスを始めたんですか？

宮本 20代で家業を継いだ当時、衝撃を受けたのがダンピングの横行でした。大規模施工があるたび生コンの価格が1,000円ずつ下がり、最後は6,400円まで下落して倒産寸前だったんです。生き残るための新しい道として着目したのがポーラスでした。

吉田 確かにあのころは競争が激化し過ぎ、同業者が次々に倒れて本当に余裕がなかった。

宇田 私は40歳を過ぎるまで他業種にいたので、自分で自分の首を絞めているような生コン業界の状態がずっと疑問でした。

当組合では5年ほど前から全国に先駆けて価格改定に乗り出し、関係各位の努力もあり順調に価格改定が進みました。今後も改定する予定です。

宮本 それはすごい!! コンクリートは水の次に流通しているのに、水より安い。社会インフラに不可欠なものにも関わらず、携わっている業界の人間がその価値を下げちゃっていったんです。水道水や電気は値下げ合戦なんてしませんよね。

吉田 正当な価格で利益を上げ、それを設備投資や人材育成のためにまわしていかないといずれ立ち行かなくなります。

脱炭素社会を実現するマテリアルとして

吉田 以前、宮本さんのところから残コンの混和材を購入

したのできっかけに、『NRタイムス』という自社新聞を送っていただくようになり、愛読していました。現在は生コンポータルを立ち上げられ、一貫して積極的に情報を発信しておられますね。

宮本 業界に長年不足してきたのは透明性とイノベーションに取り組む姿勢です。解決するためには情報発信にお金をかけるべきだと思っています。

宇田 SDGsが課題となっているいま、業界を挙げた事業にも携わっておられるとか。

宮本 2020年1月に官産学で設立された「一般社団法人生コン・残コンソリューション技術研究会(RRCS)」に参画しています。CO₂を吸収する「カーボンプールコンクリート」にも関わり、この技術は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のGI(グリーンイノベーション)基金にも採択されています。

宇田 当組合員からも1社が参画していますね。

宮本 現在、いろんな産業が脱炭素に挑戦していますが、生コンほどCO₂の吸収・固定化に潜在性をもっているマテリアルはないと思っています。

とある大学の先生が「生コン工場はCaHO₂(水酸化カルシウム)の泉だ」とおっしゃったのを聞いてなるほど!と思いました。中性化は鉄筋コンクリートの耐久性を考えるとマイナスですが、脱炭素という価値観のなかではプラスに捉えることができる。橋やビルの建設が減るなか、脱炭素社会で生コン産業の役割を再定義できれば、これからの時代に必要とされるトップ産業になれるはずですよ。

吉田 未来が明るくなるような夢のある話ですね。

宇田 そのためには業界が意識を変えていかなくてはなりません。いまが正念場ですね。宮本さん、今日は興味深いお話をありがとうございました。

